

# ホタテガイ養殖管理情報

**稚貝分散は、水温が23℃を下回り、貝のフチがまわっていることを確認してから開始してください。**

## 1 海況

9月24日時点の陸奥湾の中層（10～15m層）の日平均水温は図1、2のとおりです。

中層の水温はほとんどの地区で23℃台まで低下しており、23℃を下回る所も見られてきました。

## 2 稚貝の状況について

9月24日に久栗坂・川内実験漁場の稚貝を調査しました。測定結果は表1に示したとおりです。

へい死率は久栗坂実験漁場で4.2%、川内実験漁場で2.9%と、過去10年の平均値（西湾平均11.9%、東湾平均13.0%）よりも低い値となっています。

平均殻長は久栗坂実験漁場で18.4mm、川内実験漁場で16.5mmと、過去10年の平均値（西湾平均21.7mm、東湾平均18.3mm）よりも小さいサイズとなっています。

## 3 稚貝分散について

- 分散作業は、水温が23℃を下回り、貝の体力回復の目安となる「フチがまわっている」ことを確かめてから開始するようにしてください。
- 今年の稚貝は、体力が例年よりも低下しているため、丁寧に扱きましょう。
- ミミズガキ（カサネカンザシ）が付着し、欠刻異常となった稚貝も、水温が低下して成長し始めると欠刻部分が回復してきます。また、稚貝が小さく、生死判別が難しい場合もありますので、安易に処分しないようにしましょう。
- 1段当りの収容枚数が多いと異常貝が増え、へい死につながるので注意が必要です。
- 潮流によるぶつかり合いで、外套膜（ヒモ）が傷ついてへい死しないように、ネットにはオモリをつけましょう。また、潮流が速い場合は、作業を控えましょう。
- 作業終了後は波浪によるぶつかり合いを防ぐために、施設を浮かせずないようにしましょう。

## 4 新貝の養殖管理について

新貝の体力の回復は稚貝よりも遅いため、中層の水温が20℃を下回るまで玉付け・籠換え・掃除といった作業を行わないてください。中層の水温が20℃を下回るのは、10月中旬以降になる見込みです。

ただし、水温が23℃前後まで低下してきているので、海底に籠や耳吊りが着底している場合は玉付けを行っても構いません。

## 5 その他

水温は地区によって異なるので、作業の前には必ず陸奥湾海況情報や陸奥湾観測データ総合管理システム（ホームページ、QRコード）で水温を確認してください。

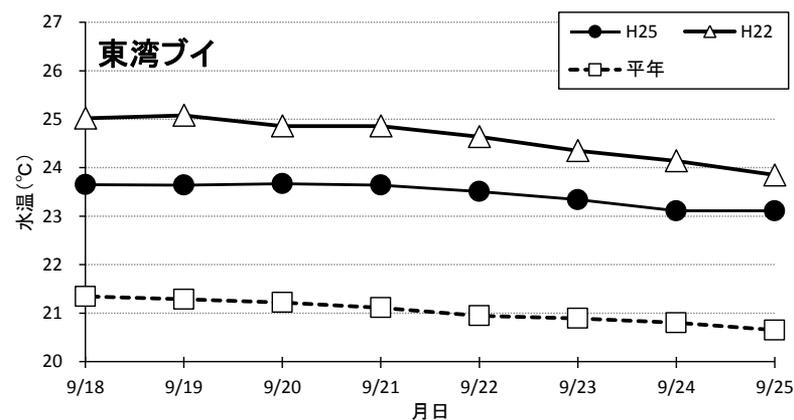
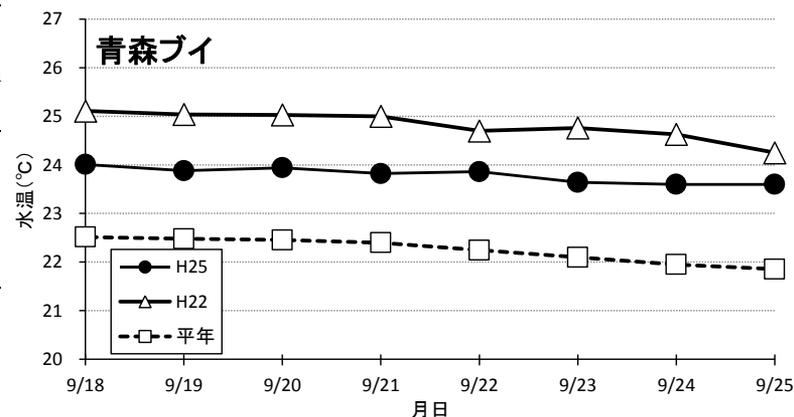
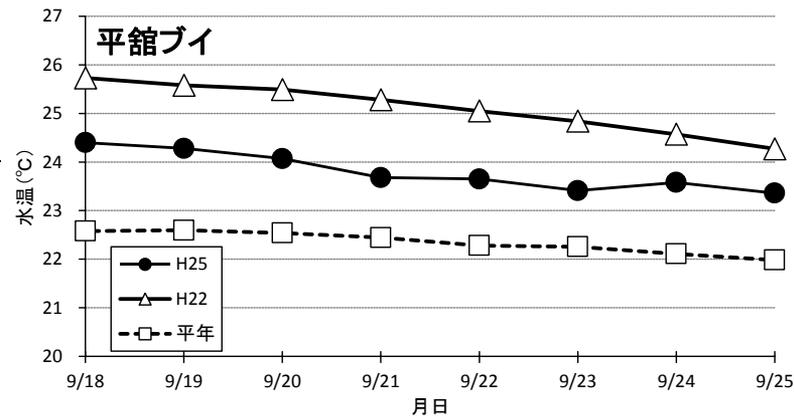


図1 海況自動観測ブイでの15m層の日平均水温の変化

表1 現在の稚貝の状況

調査場所	久栗坂実験漁場	川内実験漁場
調査月日	9月24日	9月24日
垂下水深(m)	25	20
稚貝採取時期	7月26日	8月2日
採苗時の篩の目合(分)	2	2
1段当りの収容枚数(枚)	48	69
死貝数(枚/段)	2	2
へい死率(%)	4.2	2.9
平均殻長(mm)	18.4	16.5



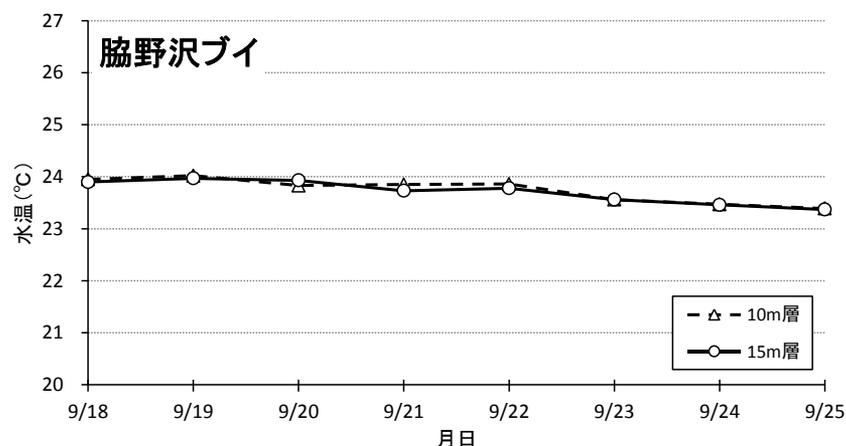
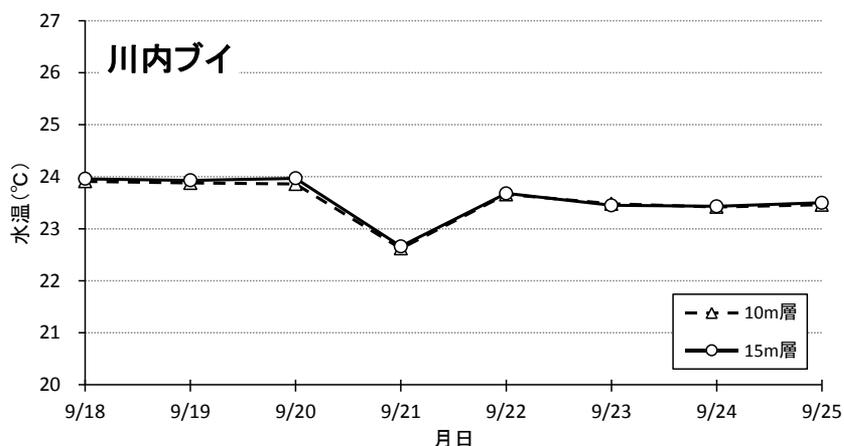
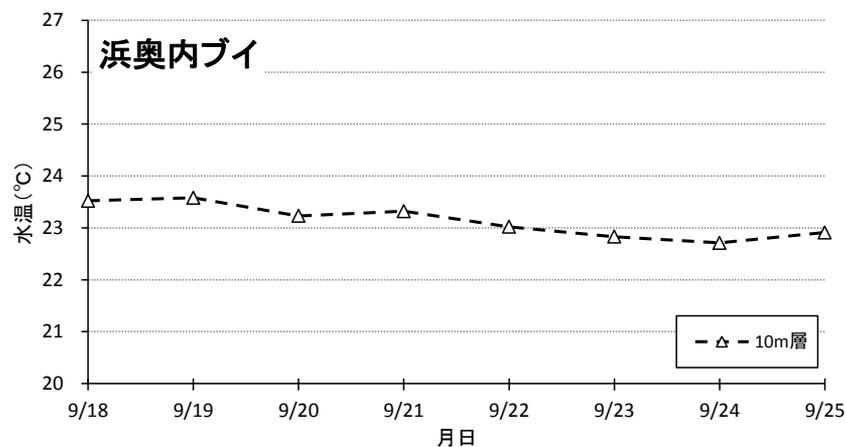
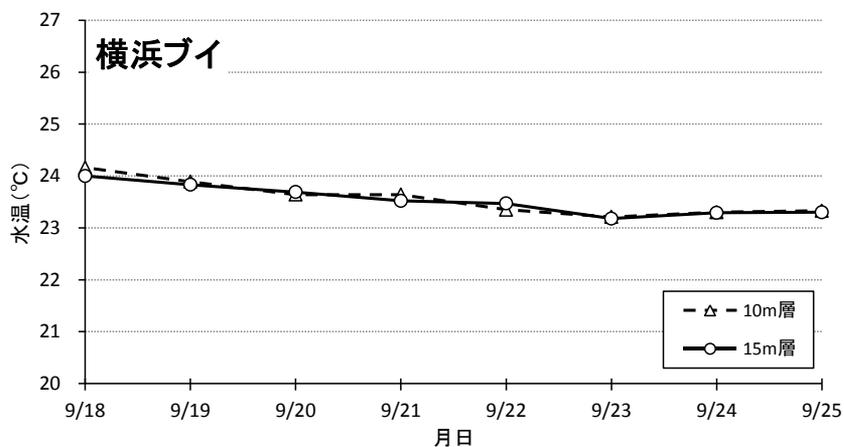
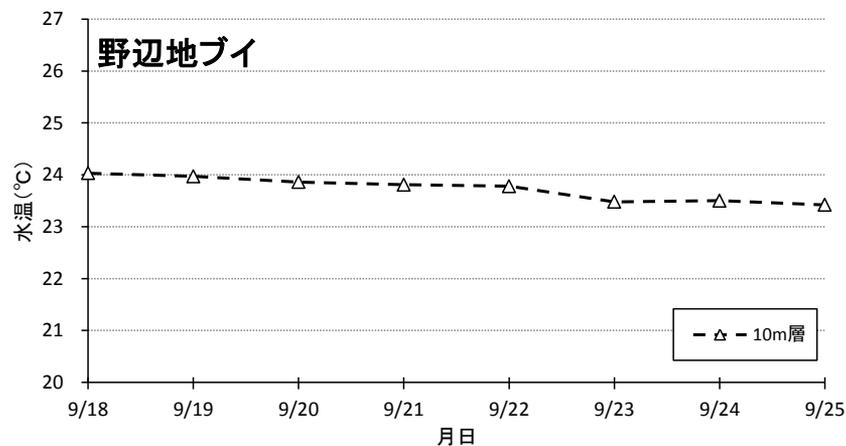
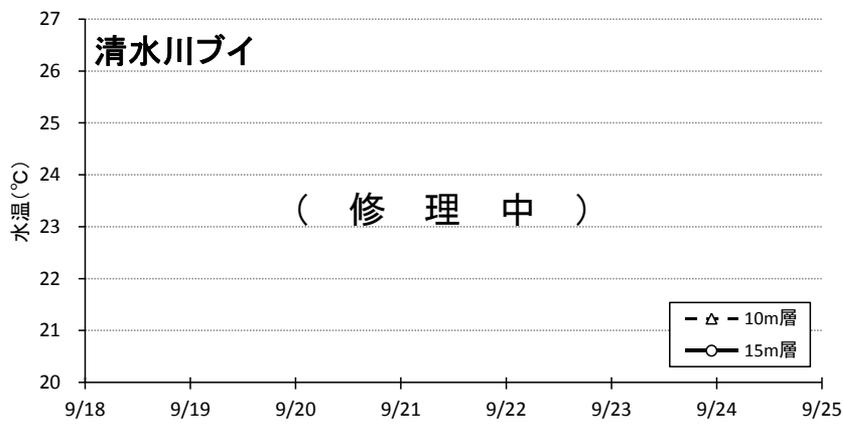
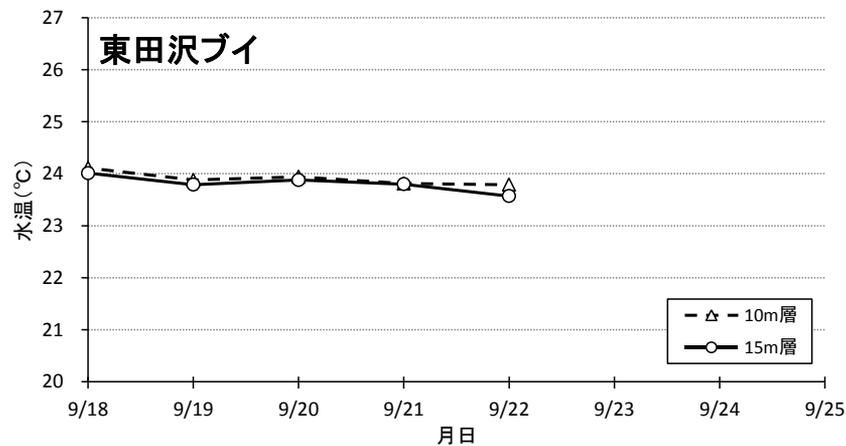
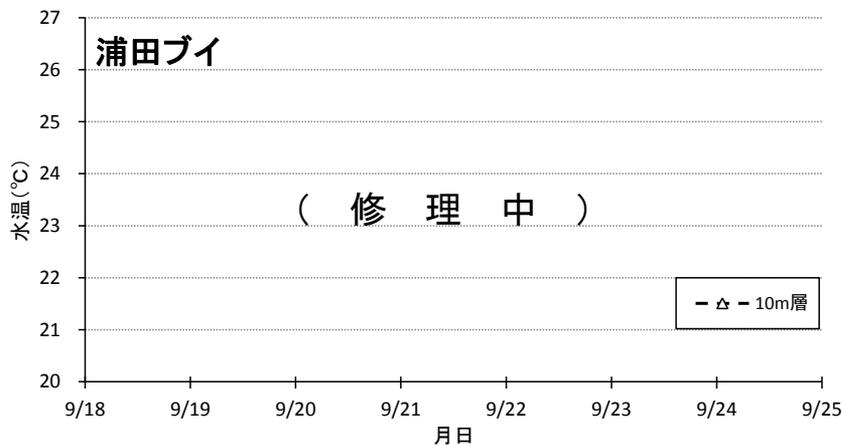
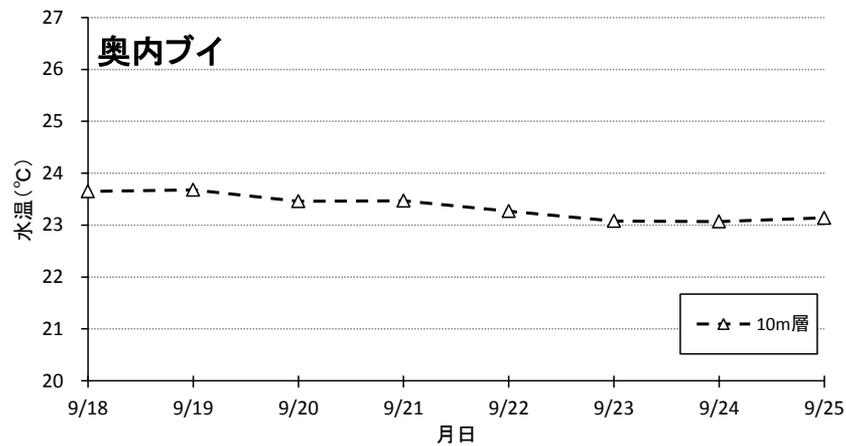
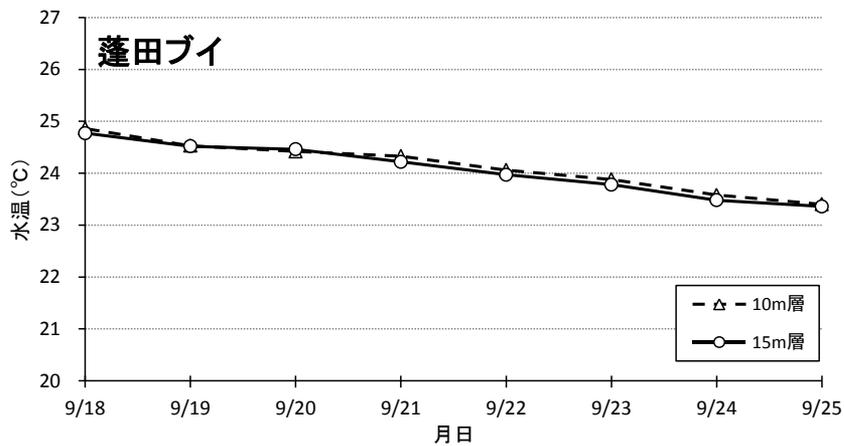


図2 水温観測ブイでの中層（10～15m層）の日平均水温の変化